

## 社 報



## 「タナ」から「ボタモチ」

## 改善を進める

仕事の効率をあげるため、品物の品質をあげるため、工期や納期を短縮するため、安全にモノをつくるために、改善活動を進めましょう。身の回りには、改善しなければならない課題が、山のようにあるはずですよ。

改善を進めて、仕事のやり方が変れば、それもまた、仕事のやり甲斐です。

今のやり方を決して良いと思わずに、工夫をすることが大切です。

いつも忘れてはいけません。



先月はノーベル賞を受賞された、鈴木・根岸両博士のお話を紹介しました。

これと似た話を、清水建設・兼喜会の前会長である北浦会長が良くされていました。それが、「タナからボタモチ」の話です。

不景気も長く続くと閉塞感がただよってくるのか、北浦会長のところへ来る人は、「会長、なんかええ話はありませんか。」と言う人が多いとのこと。そんな時に会長は、「ええ話なんかあるわけないやろ……」、で「タナからボタモチ」の話が始まるわけです。「タナからボタモチ」とは、ある時、突然に降って湧いたような幸運が訪れることを言うのですが、北浦会長は、「タナボタ」も人を選ぶと言うのです。何の努力もせずに、「ええ話はありませんか。」と人に聞くような人間には「タナボタ」は起こりえない。

ないかも分らないけれど、「タナボタ」が、いつあるか分らないと信じて、探す人のみに「タナボタ」があたるわけです。他人から見たら、「タナボタ」かも知れないが、それは努力の結果で

あって、偶然に手に入ったように見えるだけであると言うのです。

それも知らずに、「なんかええ話はありませんか。」と言う人間は、苦勞も努力を知らない人間であるとの事でした。

私個人はこの話が好きで、北浦会長も、良くこの話をされておられました。ノーベル賞の話先月の社報に掲載したのは、ノーベル賞受賞の博士と、北浦会長の話の趣旨が同じであったからです。

また先日読んだ本にも同じことが書いてありました。

「自ら求めるものがない人は、何も得ることもない。」 福原義春

松下幸之助さんは、晩年の講演で、「どうしたら松下さんのように成功を得られるのか。」と聞かれ、「なりたいと思うことすなわ。」と答えたそうです。それを聞いたほとんどの人は、啞然としたそうですが、後の京セラ会長、若き日の稲盛会長は、その言葉に感銘を受けたそうです。

自ら求めない者には、何も手に入らないのです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 基本は自分で作る

基本とは、読んで字のごとく、物事の基礎・本質を示すものです。世間にはいろいろな仕事・スポーツ・趣味……、などがあり、それぞれに基本があります。

しかし、口やかましく基本を唱えても、それを守る・守らないは、動作を行う本人次第です。

ルールは誰かが定めたもので、守る

べき事柄が定められています。しかし、基本には明快な定めはなく動作を行う本人が作るべきことなのだと思ふのです。

その基本は、親方であり、先輩であり、時には同僚から、しつけられ、教えこまれ、本人が確立するということでしょう。

安全は動作を行う本人で決まります。

## 2010年 安全成績

■ 現場災害 H22.1.1-H22.12.25	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■ 交通災害 H22.1.1-H22.12.25	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 2
合計	----- 2